

## (6) 東海



東海地域では、景気は足踏みがみられるが、緩やかに回復している。

- ・ 鉱工業生産は持ち直しの動きがみられるものの、一部自動車メーカーの生産・出荷停止の影響に留意が必要。
- ・ 個人消費は持ち直しに足踏みがみられる。
- ・ 雇用情勢は改善の動きがみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す ( \_ は上方に変更、 \_ は下方に変更 )

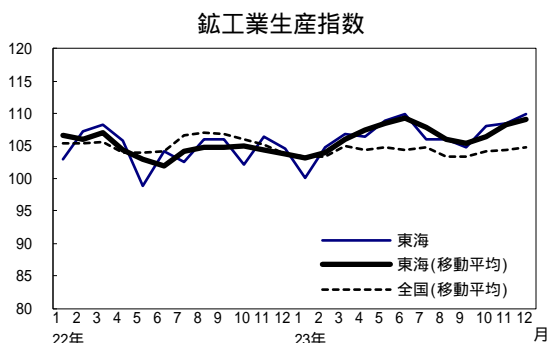
### 前回からの主要変更点

	前回 (令和5年11月)	今回 (令和6年2月)	
景況判断	緩やかに回復している	足踏みがみられるが、緩やかに回復している	
鉱工業生産	緩やかに持ち直している	持ち直しの動きがみられるものの、一部自動車メーカーの生産・出荷停止の影響に留意が必要	
個人消費	緩やかに持ち直している	持ち直しに足踏みがみられる	

### 1. 鉱工業生産の動向

鉱工業生産は持ち直しの動きがみられるものの、一部自動車メーカーの生産・出荷停止の影響に留意が必要。

10 - 12 月期の鉱工業生産は、前期比 3.0% 増となった。月別にみると、10 月は「電子デバ、電気・情報通信」が増加したこと等により前月比 3.1% 増、11 月は「輸送機械」が増加したこと等により同 0.4% 増、12 月は「輸送機械」が増加したこと等により同 1.3% 増となった。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値ウェイト	生産				
		7 - 9 月期	10 - 12 月期	10 月	11 月	12 月
輸送機械	39.3	1.5	3.9	1.5	1.8	2.4
石油・石炭、化学、プラスチック	15.8	3.1	2.4	3.8	0.3	1.2
電子デバ、電気・情報通信	12.2	6.3	6.9	8.9	1.2	1.4
汎・生産・業務用機械	9.8	3.1	0.1	3.5	1.1	0.8
鉄鋼業、非鉄金属、金属製品	7.8	4.1	1.9	4.2	2.1	1.0
鉱工業	100.0	2.6	3.0	3.1	0.4	1.3

- (備考) 1. 2020 年 = 100、季節調整値。  
東海の最新月は速報値。  
2. 全国及び東海の太線は中心 3 か月移動平均。  
直近月は 2 か月平均。  
3. 東海は内閣府にて算出。

- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い 5 業種。  
2. 10 - 12 月期、12 月は速報値。  
3. 業種は内閣府にて分類。

## 2. 個人消費の動向

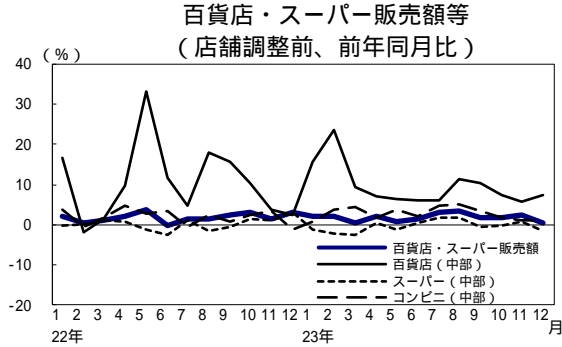
個人消費は持ち直しに足踏みがみられる。

### (1) 地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

10 - 12 月期は前期比 0.2% 減となった。月別にみると、10 月は前月比 0.2% 増、11 月は同 0.2% 増、12 月は同 1.6% 減となった。

### (2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパーは、10 - 12 月期は前年同期比 1.4% 増となった。月別にみると、10 月は前年同月比 1.7% 増、11 月は同 2.3% 増、12 月は同 0.4% 増となった。



	2023年10-12月	2023年10月	11月	12月
RDEI(消費*1)	0.2	0.2	0.2	1.6
百貨店・スーパー(*2)	1.4	1.7	2.3	0.4
百貨店(*3)	7.0	7.5	5.8	7.5
スーパー(*3)	0.4	0.1	0.9	1.6
コンビニ(*3)	1.3	1.7	1.2	1.1
乗用車(*4)	8.5	13.3	9.2	2.7
季節調整値)(*4)	1.6	10.5	8.7	4.3

(備考) 1. 季節調整前(月)比(%)

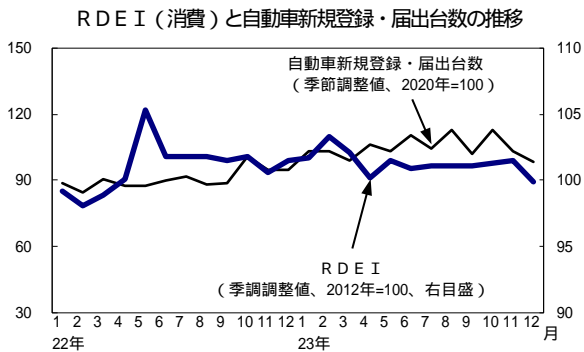
2. 店舗調整前、前年同期(月)比(%)

百貨店・スーパーは内閣府にて算出。

3. 店舗調整前、前年同期(月)比(%)

百貨店、スーパー及びコンビニは、経済産業省の中部(富山、石川、岐阜、愛知、三重)の値。

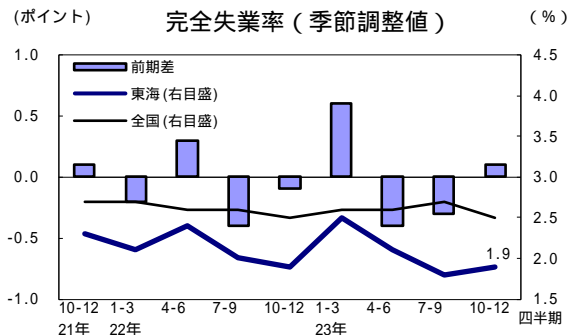
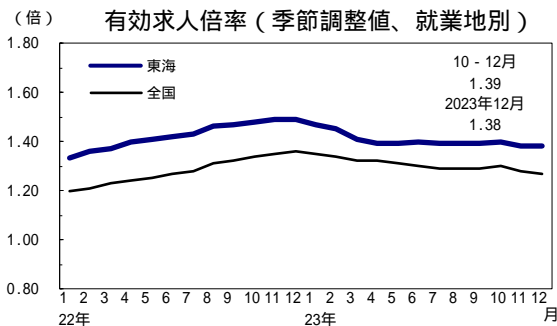
4. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比(%))



## 3. 雇用情勢

雇用情勢は改善の動きがみられる。

有効求人倍率はおおむね横ばいとなっているものの、前回の景気循環の平均的な水準にある(P9参照)。一般労働者の定期給与、パート労働者の時給は上昇している(P10参照)。完全失業率は前期を上回っている。



(13) 景気ウォッチャー調査 (令和6年1月調査) 景気判断理由の概要

6. 東海

(◎良、○やや良、□不変、▲やや悪、×悪)

	分野	判断	判断の理由
	現状	家計 動向 関連	□
○			・本格的な寒さとなり商品の買上点数が増え、前年比20%増加している。防災対策のため災害時にも使用できる物を買求める人が増えている。寒さが厳しくなり、地域経済は例年並みの水準になっている (衣料品専門店)。
▲			・来客数、買上点数が少しずつ減少している。原材料の価格高騰に伴う商品価格の上昇を、消費者も徐々に実感しているようにみえる。価格訴求型の競合店で来客数が増えている印象を受ける (スーパー)。
企業 動向 関連		□	・コロナ禍での混乱も収束後の反騰も落ち着いて、需要は安定している (電気機械器具製造業)。
		○	・自動車関連の受注量、販売量が以前と同程度に戻っており、良い方向に進んでいる。青果物関連の受注も引き続き好調で、景気はやや良い。能登半島地震の影響は、距離が離れているため余り受けていない (パルプ・紙・紙加工品製造業)。
		▲	・取引先は資材の値上がりを理由に価格を上げる一方、競合他社は市場の奪い合いで価格を下げる。利益はどんどん確保しにくい状況になっている (通信業)。
雇用 関連		□	・有効求人倍率は4か月連続で前年を下回ったが、新規求人数は6か月ぶりに前年を上回り、建設業は10か月ぶり、卸売・小売業は11か月ぶりに増加に転じた。有効求職者数の約2割を65歳以上の高齢者が占める状況となっており、物価高などが高齢者世帯の生活に大きな影響を及ぼしている (職業安定所)。
		○	・年収アップを目標とした求職者が多い印象を受ける。特に1月に入ってから、4月入社を見据えた活動が活発化している。対して求人者側の選考目線が軟化することはなく、ミスマッチが生じている (人材派遣会社)。
その他の特徴 コメント		○：インバウンドが順調に伸びている (テーマパーク)。 □：受注量が減少している。また、一部を除いて原材料の価格は高止まりで、利益の確保が難しい状況が続いている (金属製品製造業)。	
先行き		分野	判断
	家計 動向 関連	□	・能登半島地震が発生した影響で、今後が見通せない (一般レストラン)。
		○	・もう少し時間がたてば能登半島地震の影響も落ち着き、北陸応援割も始まるため、旅行業界の景気は上向き見込みである (旅行代理店)。
	企業 動向 関連	□	・新型コロナウイルス感染症が落ち着き、円安も落ち着いたことで原料価格が安定し、受注量も安定してきたので、しばらくは現状維持の見通しである (窯業・土石製品製造業)。
		▲	・電材向け需要が底を打って、徐々に回復傾向となる (化学工業)。 ・モノへの消費拡大の気配がみられない。また、物流2024年問題により、4月以降外注費の上昇が見込まれる (輸送業)。
	雇用 関連	□	・足元では企業等の新卒採用意欲は堅調に推移しているが、2～3か月先に更に良くなる要因は思い当たらない (学校 [大学])。
その他の特徴 コメント	○：問合せに具体的な内容が多く、家族を巻き込んだ話もあるため発注の確度が高い。それだけで決定的に景気が良くなるとは言いきれないが、見通しは明るい (乗用車販売店)。 ▲：見積り依頼はあるものの、様々な材料の価格高騰でコストがかさみ、施主は二の足を踏んで大半が見送りになっている。物価高騰が落ち着くまで、まだまだ厳しさが続く (その他住宅 [住宅管理])。		

(D I) 現状・先行き判断D I (東海) の推移 (季節調整値)

